



講座だより



【開講時のオリエンテーションの様子】

令和3年8月7日（土）に浜松市にある県立森林公園森の家にて、森林環境教育指導者養成講座の『体験コース』を実施しました。県内各地から14名の受講者が集まり、“森林環境教育”とはどんなものなのか、体験を通して理解を深めるための講座を行いました。講師は公益財団法人キープ協会（山梨県）の関根健吾氏です。会場では消毒やマスク着用の徹底、常に換気を行うなど新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら、野外を中心に自然をゆっくりと楽しみながら学ぶ1日になりました。

【午前】アイスブレイク・森林環境教育プログラムの体験

最初に室内にて互いを知る簡単なアイスブレイクゲームを行いました。その後は野外に出て、実際に森林を使った森林環境教育プログラムの体験を行いました。リスのまつぼっくりの食痕を探したり、葉の影を鑑賞したり、お気に入りの木について感じたことを詩にして発表し合う体験等を行いました。これらの体験から、普段何気なく見ている森も視点を変えたり、視覚以外の感覚を使うことで新たな気づきがあることを学びました。

【リスの食痕を探す様子】



【葉の影を鑑賞する様子】

【午後】森林環境教育プログラムの体験とふりかえり

【ふりかえりの講義の様子】



【気づきを共有する様子】

午後は午前中の森林環境教育プログラムのふりかえりを行いました。講師が工夫をしていた点や、配慮をしていた点など、受講者が気づいたことを互いに話し合い、全体で共有し合うことで学びを深めました。その後、再び野外で受講者が自ら気になることや面白いと感じたものを探し出す実習を行いました。ひとりひとり気づくことや感じるものが異なり、自然の見方は色々あることを知りました。また、講師からは参加者の視点になり、寄り添い感じる大切であると語られました。

＜発行元＞

静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課 自然ふれあい班
電話:054-221-2848 Eメール:fureai@pref.shizuoka.lg.jp